（大正十一年十二月二十一日第三種郵便物認可）　昭和七年七月十六日　磐城新聞　（土曜日）　第三千四百八十號　〔一〕

夕刊
磐城新聞
七月十五日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金五十錢（郵税拾五錢）
廣告料金 普通欄 一行金六拾錢 雜報欄 一行金九拾錢（五號十二字詰 一行 場所指定一回 拾錢增）
編輯印刷兼發行人 柏木 衛
發行所 磐城國石城郡平町田町十六番地 磐城新聞合資會社
登錄電略（タイラ イワキ） 平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

童話 幸平ぢいさんと馬車（上）

千葉省三

馬車屋の幸平ぢいさんは若いころ、ほうそうをわづらつたので顔ぢう、ひどいジャンコ（あばたの事）になつてゐた。

『爺んつアの面ア、土蜂の巣みてえだなあ』

と、おれらが云ふと

『土蜂なもんか、熊ン蜂だぞ！』

と、おどけに、ギロンとした眼玉をむきだしてゐばつて見せる。

『こんなかにや、一匹づゝでツけい熊ン蜂がへゑツてんだ。お前ら、いだづらすッとひつぱりだしてたけてやんぞ』なんて云ふ。

ちひさい蓉作などは、本氣になつて眼を丸くして、幸平ぢいさんのジャンコの穴を見つめたものだ。

幸平ぢいさんは、毎日朝と午後には、宿の下手からラッパを吹き／＼トテ馬車を走らせて來た。そして並木道をとほつて、二里離れた猿沼の町まで、お客を運んで行く。

トー！テー…トテトー…

ねむいやうな、くすぐつたいやうな、よく透るくせに含み聲をしたやうな、其のラッパの音が十町ある宿の隈々までひゞき渡ると、まんぢうやだの、お茶屋の店先から待つて居たお客が風呂敷包をさげたり、子供をおぶつたりして街道へ出て來る。幸平ぢいさんは、いちいち、其のお客を馬車の中へひろひ上げてはラッパを吹き立てゝだん／＼宿の上手へ上つて行くのだつた。

おれらはおれらで、街道の兩側に並んで待ちかまへてゐた、そして幸平ぢいさんが

『トーテー…トテトー』

とラッパを鳴らすと、其れに合はせて

『コーヘー…ジャンコー』

とはやしたてた。

『こん、こぞうめら！』

幸平ぢいさんはラッパを吹きやめて馬車の上から長い鞭をふり上げておどかす。おれらはワッ！、といつて飛びのきながらよけいに聲をはり上げて

『コーヘー！ジャンコー』

と、馬車の後からあびせかけるのだつた。

宿に自動車屋が出來て幸平ぢいさんのトテ馬車は、はやらなくなつてしまつた。

大きな自動車が、つむじ風のやうにほこりをまきあげて、ひどい地響きを立てゝ毎日街道をとんで行つた。珍しもの好きの、おれらは、このあせいのいゝ新しい乗物に、すつかり夢中になつて、昔馴染のトテ馬車の事なんか忘れてしまつた。そして自動車の音がするたんびに外へかけだして大きな聲で叫んだり、あとを追ひかけたりした。

けれどこの新しい乗物は、おれらの遊び相手とするには、あんまりらんぼう過ぎた。天氣の好い日は砂ほこりを頭からあびせかけるし雨の日は軒下に遊んでゐても、水鐵砲のやうに泥水をはねかけられた、お負けに運轉手は小意地がわるくて街道で遊んで居るおれらを見さへすると、ひどいけんまくでどなりつけた。

おれらは、自動車がだん／＼いやになつて來た。そして其れといつしよにあのトテ馬車のラッパを、またなつかしく思ひ出すやうになつた。けれど其の時はもう幸平ぢいさんのトテ馬車は宿の街道から消えてしまつて居た、

おれらは

『コーヘー…ジャンコー』

と、もう一度思ひきり大きな聲ではやしたてて見たかつた。

おれらは街道で獨樂まはしなどをしてゐながら、フとどこかであのトテ馬車のラッパが聞えてくるやうな氣持がする事があつた。

『聞けたぞ！な！』

『なにが！』

『爺んつアのラッパが。トテー…つて』

『聞けるもんけ、爺んつア馬車屋やめたんだもん』

『それぢや、空耳かな。ほんとに聞けたんだがな』

おれらは、それでも耳をすましてぢッと宿の下手を眺めるのだつた。

時代警語

○等待する事を知るは事業を成就する第一の秘訣なり…………（デメースター）

商道の學術はその進歩殊に遲く絕大なる事業は一次に成し得る事は出來ぬ。故に人の一生は路を行くと同一である…………（三）

潮聲硯靜抄帳（六月集）15

岡本機桝特撰

五章

背戸川や目高を追ふて兒等遊ぶ　鶴歩

行儀よく目高ならべり溜り水　晩霞

藻も入れて玩具バケツの目高かな　眞砂常

手に掬ふ目高必死とはねにけり　武門

客鑵をこほれし目高草にあり　孤舟

三章

掬ひ上げる網の目もれし目高かな　武門

藻にせかれ目高の群の二ところ　松堂

みな口の泡たつ中や目高浮く　鶴歩

磐城歌壇

人見武

○のけてよと予らさけびなり細道に春のやは草牛は食みなり

○よべはとて牛の主は來らざり聲をからして呼びつつあるも

○さ苗とる乙女らあまた向ふべの畔の芝生にいこひをるかも

○耕作に鍬とる人の口の端にも時局云々言ひてなりしが

○諸々の案をば議しついさかひつ農村救濟の記事多きかも

箱根仙石原

…（童謠詩）…

市川健次

原つぱの
細みち
湖につづき
篠竹
ぬいた
やまべを提げて
こどもが
とほつた
風のよな。

社會の今日

7月16日

△日本武尊東征（景行帝四）○△近畿へ令して茶を植ゑ每年之を獻せしむ（弘仁六）△英國汽船を幕府に贈る（安政五）△石友三氏、反蔣態度を表明し、奉天軍に宣戰を布告す△古河炭鑛死斯爆發五名死傷（昭和六）

○

大頭剃るや青々日燒の子　木欒子

この中に馬樂もありやなど思ひ瘋狂院の地獄繪を見る　吉井勇

鄕土色の放送 發破節に望む

齋藤昌武

故來民謠と云つた一つの鄕土藝術の詩歌的流れが其の鄕土其の土地土地に應じての特異の地方色を最も單易に甚だ面白く表明して獨特の人情風物傳記等々が繪卷物の樣な具合に流し出されるを見るにつけて一種云ふべからざるの感興を起すことが少くない。

近頃聞くところに依れば磐炭の採炭夫が五名程十七日午後一時仙臺放送局より發破節を放送するとの事である、從來例年の盆踊りなどに唄はれたものの中に甚だその俗惡なるものありて聞くだにむしろ低級なる感にうたれるもの少くはないものがあつた。

民謠とかをざりと云つた形のものが興味をそゝられながら尚且つ小々の非難を蒙りつつあつたことはとりもなほさずその歌の内容に至つて甚だ以て程度を越ゑた低級なものがあつたからであらうが、磐炭採炭夫が最近放送する所謂發破節とかゞ非常に愉快な材料を集めてあることである。

若い採炭夫達が不況に殃されながら落ちついた磐城の炭山も案外いゝとこだな―坑内へ坑内への交替制にいなど―危險な生活線戰で友の無事な顏を見てうれしの美しい友情中に風呂踊り山神祭と云つた中に若い山男女のいたつてありのまゝの姿を歌ひ込んだ、從來の炭鑛節『堅坑三千尺落ちれば地ごくは、こんどの發破節では堅坑三千尺やみぢの戀はと……上り下りで逢ふばかり』

と、いたつてその生活の浮沈を表面じて十分であらう吾等は折角の民謠放送がけつして、ふざけたものでなく立派な鄕土藝術として時代不況に幾分でも局面打破の警鐘を十分に發露される事を望んでやまぬのである。今回發破節の放送に對して地方色案内の放送人によろこんでその擧の盛んならんことを望むのである。

元磐中教諭の吉田右佐先生がその在職夏期休暇中國語學の理解は民謠に負ふところ多しとしてその休暇中生徒に地方民謠の採錄を課題したことが割合時代的にその必要さを保持してゐることを物語つてゐて餘りあるであらう。吾等は今回の地方民謠放送者に對して喜んで十分の成果あることを期待して止まない、思ふまゝ記したわけである。

譯談 お蘭陀お蝶

（81）　渡邊默禪作　布施長春畫

仲間の與作、そろ／＼喋舌出した。

『しゝえ、爾うぢやないの、主人さまは想をとおつしやつたんだけれども、私の方から御辭退申上げたのよ』

『ハテネ、何んだつて』

『諸事御儉約のさかりに少しでも餘計な物入りをかけては濟まないから』

『ヘエ――、お堅いこつた』

『大丈夫だからお案じでないよ』

『エヘ……女房に持つんならお前さんの樣な世帶氣のある女に限る、ね、あの女房と言へば若大將の御新造だが』

『え』

『今度いよ／＼決まるんだつてね』

『おや僞う』

『まあ、その御新造でも出來てさ、私共へ氣を付けて呉れる樣になつたらちとは息も吐けるだらうが、全く此の節のやうに御儉約／＼のお聲がゝりで、侍衆から責め拔かれちやあ、手も足も出せるものぢやねえ、ヤア其處へ行くとお柳さまあなたは評判がようがすせ、よく行届いた情深いお方だ彼の処ねさんが來てからお菜も澤山になつた、第一に頭だけで胴のねえ目刺魚なんか此頃はトントお目にかゝらねえが、是もお柳さまの御利益だあんなお方が御新造さまだつたら此方とらは大助りだつてね、部屋中みんな然う言つてやすせ！エヘヘ、』

お柳は實際嬉しかつた。假令お世辭にもせよ、御新造であつたらばといふ一語が泌々と胸をそゝつた、多分はお松が話した樣な事を知つてゐてわざとこんなくすぐりを言ふのであらうと思ふと何だか顏を覗かれる樣な氣がして急に頰が熱くなつた、でも空とぼけたふりをして。

『いえ、私なんかちつとも氣が付きやアしませんわ、ほんやりだからね、それはそうと爺や』

と言ひ難そうに

『アノ御新造さまが、お定りになつたつて眞實？どちらから入らつしやるの？』

『へエ、詳しいことは知らねへが、何でもそんな話でがす、夫れに就いて宮脇さまがね』

『あア』

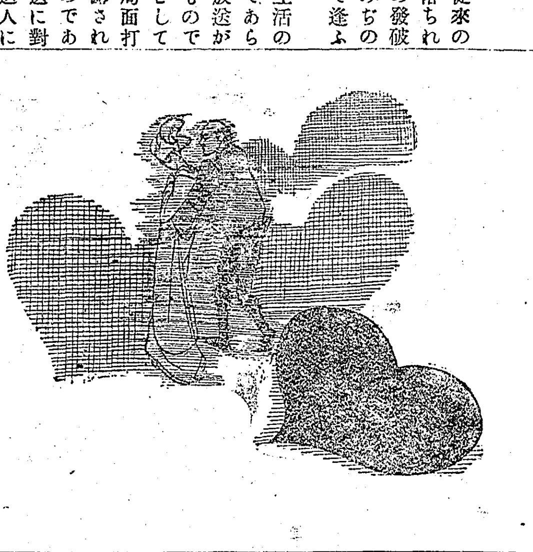
『あなたのお里のソレ三好屋さんとちやんと約束が出來上つて、其の話を旦つくの方へ持ち込んで確か一昨日の朝のこつた。奥の間でお二人さまが、相談してゐる處を部屋の德の野郎がお庭の掃除をしながら聞いてたつて云ひますよ』

『あら、まあ』

お柳は驚喜の聲を揚げずには居られなかつた言ふまでもなく其の候補者は自分である宮脇樣が三好屋にお出かけなされたのは、二日の晝過ぎでお歸りになられてからのお話に依ると内儀さまだけが私と養女に呉れる事を得心なすつたが、追つて五郎兵衞樣からしかとした御挨拶があろ筈、最う出來たものと思つてゐろとのお言葉であつた、して見ると前夜の騒ぎにあゝいふ計らひをしてくだされたのも、養女にとの嬉しい仰せがあつたのも、主人の御一家に豫め然ういふ御見込みがお有んなすつたところから出たもので、お松の話は實際であつたのだ、そうして私を御引取り下すつた上に、若さまと改めて――など想ひ回すと、いよ／＼心臟の鼓動が高くなつた。

何處をどう歩いてゐるやら無我夢中、町の景色も眼には止まらなかつた。

西成郡の海老江村へ行くには、先づ堀川へ出て曾根崎を拔け、上福島の妙德寺の五百羅漢を左に見てそれから田圃づたひに中津川縁へ向ふのである。



ラヂオ

仙臺 JOHK …十六日…（土曜）…

△前六、〇〇A ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象
△九、一〇 料理献立（そら豆スープ）菊地貞子 日用品値段
△一〇、三〇 家庭講座（色彩本位の盛花實習）小山光美
△正午A 時報
△後〇、〇五C 源氏節（安珍清姫日高川）岡本美狹鶴 美狹富 美狹枝
△〇、四〇A ニュース 氣象
△二、〇〇A 家庭講座（箏曲）實演解說…宮城道雄 唄…牧瀨數江
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇 ニュース
△六、〇〇（子供の時間）童話劇（カナリヤと金魚）莊司義孝…作 出演…若柳童話研究會
△六、二〇A コドモの新聞 樫葉勇
△六、二五A カレント、トピックス ハロルド、バーマー
△六、三〇A 英語講座（中等科）勝俣銈吉郎
△七、〇〇A ニュース 氣象 生繭相場
△七、三〇A 講演（國民として國旗と國歌を尊べ）法學博士松波仁一郎
△八、〇〇 清元と小唄 一、二、小唄 立花家金八 深山櫻及兼樹振…保名
△八、二〇A ラヂオ風景（とぼけたラヂオ小品）作並指揮…岡本一平
△九、三〇A 時報
△九、三一A 滿洲より（匪賊に拉致せられたる實驗談）久留島秀三郎 ニュース 氣象 生繭相場

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸 虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院（平南町電話一〇七番）

美味百パーセントのうなぎ料理……
大蒲燒 一人前 四十錢 二人前 七十錢
うなぎ丼 細丼 二十錢 並丼 二十五錢 上丼 三十五錢
……外に…… ◇親子丼 拾五錢 ◇柳川 二十錢
御客本意の勉强振り御試し下さい。
●出前迅速!!
日の出・うなぎ食堂 二丁目（佐野屋旅館隣） 電話 六〇九番

貸切ノ御用命ハ イツデモ眞先ニ（松崎ニ） 三九二タクシーヘ （デンワ、ミクニ）

更科生そば
一、もりかけ 金七錢
一、ざるそば 金拾五錢
一、冷むぎ 金貳拾錢
尚氷水も始めました。
一、アイスクリーム 金拾錢
一、あづきアイス 金五錢
一、ミルクセーキ 金拾五錢
…出前迅速…
平二丁目警察署通り 藤よし 電話一六六番

難波醫院
內科 一般
醫學博士 難波睦
平町大町新川端（電話五〇二番）

石炭の大特賣
◎塊炭 正味十貫目 一俵 金貳拾錢也
▲『品ガ良ク』『値ガ安ク』『目方ハ正確』デス。
▲トニカク一度使ツテ見テ下サイ。
◉配達ハ一俵ヨリ致シマス。
御注文ハ ―電話三七番―
ツ 阿部石炭商店 平停車場前

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門 X光線科
平南
病室完備
上田醫院（電話一二九）

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物 久 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番 振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は久の生命なり

平局の電話申込 極めて閑散
受付開始以來一日一口平均 局員極度に悲觀

平局に於ける本年度架設電話は十一日に受付けを開始以來今十五日迄に僅かに五口しかなく係局員をして極度にひかんさせてゐるがこの分では締切り迄に十口位にしか達せぬものと觀られてゐる

記在滿兵兩君は今十五日本社宛懇篤なる暑中見舞狀を寄せられた
在奉天(勿來町)佐々木幸市君　在吉林(三坂村)永山常重君

勿來電話特設組合 十三日解散決定

勿來町五十八名に依て成る電話特設組合は十三日限り解散する事に決し同町青年會館に會合し積立殘金七百八十圓の處分に就ては一名當り十三圓餘宛分配する事に決したと

顧問茂庭博士の上水道竣功檢査
昨十四日無事終了

平町上水道顧問茂庭博士は十三日夜來平十四日早朝より上の原淨水池並に八幡小路の配水池各構造物出來上り檢査の爲伏見町長、山下課長、海老島技師と共に出張し尙ほ盛夏に際し給水量增加に伴ふ送水量等に付注意を與へ今十五日の水戶水道竣功式臨席の爲出發した

上水道視察團　須賀川町佐藤助役外町議六名の一行は十三日來平水道課を訪問山下課長より諸計劃其他に關し詳細なる說明を受けたる後自動車で上之原淨水場、八幡小路配水池に臨み工事方法等の細部に亘り說明を受けて四倉町海氣館に引き上げ昨十四日湯本町を視察した

水道竣功式
廿四日擧行の豫定

平町上水道擴張工事竣功祝賀式は大体に於て二十一日頃竣工檢査を受け二十四日に盛大に擧行する事に內定した模樣である

凱旋奉告と在滿兵武運祈願
勿來町で祭典執行

勿來町出身現役在滿兵十二名及び上海事件の凱旋兵十三名合計二十五名に對する神前奉告祭並祈願祭は十三日午前十時より同町鄕社國魂神社境內に於て町議、實行組合長、在鄕軍人其他百餘名參列の上壯嚴裡に執行された、尙以上の兵士に對してはそれ〲町から記念品を贈呈したと

從來の例を破る 昨今の米相場
騰る時季に却つて安値

平町に於ける今十五日現在の地方産米値段は四等石當り二十圓五十錢で前年同期と比較すれば二圓五十錢の高値であるが從來の例から見ると相場七月から八月にかけて四季を通じ最も騰るのが常とされておるも今年は之に反し若干保合を續けると言つた奇現象を呈して居るが之は過般來天候不良で一時悲觀された稻作が最近平年作は確實と見られるに至つたのと政府の不足米補給方策が確定した爲である

在滿兵通信。。。。　本郡出身左

縣外消防施設視察
菊田の各代表出發

植田消防協會代表岡部植田署長、坂本植田、山崎錦、油座田人各組頭は來る十八日より五日間の豫定で若松新潟、佐渡、長野各方面の消防施設視察をなすと

勿來海水浴場施設協議〰勿來青年團同消防組では十三日午後七時より同校小學校內に分團の幹部會を開き海水浴場脫衣場建設其他に就き協議した

不良接客業者へ嚴重な取締
平署で今曉管內特別執行 違反者多數發見

最近著しく殖えた料理店、カフエー、麻雀及び撞球場等は夜明け近くまで營業を續け當り構はず喧騷するので附近の迷惑一方でなく又其間エロサービスで風紀を紊すのも甚だ多いので一般から徹底的な取締方を要望されてゐるが平署では今曉午前零時から管內平、湯本小名濱、內鄕、好間、豊間江名各町村に亘り一齊に特別執行を行つた結果多數の違反者を發見し嚴重處罰するが更に夏期を當込んで良家の婦女を追ひ廻す軟派不良、或は喧嘩を賣つてものにせんとする硬派不良に對して近く徹底的取締りの手を下す事になつた

佐藤捕手經過良好。。。。　平町田町伊坂醫院に入院加療中の磐中佐藤捕手は昨十四日左膝部の化膿部切開手術を受けたが經過良好で三週間位で全治すると

磐中對平商野球戰
明日午後三時から開始

磐中對平商の野球試合は十六日午後三時から磐中グラウンドに於て開催されるが兩校共一週間の後に迫つた縣中等校野球大會を控へてゐる事とて頗る緊張しており前回磐中に慘敗した平商は雪恥の意氣に燃えて一擧磐中を屠るべく腕を撫しておるので興味ある試合をなすだらうと期待されてゐる

久慈キャプテン來平〰磐中野球部の招聘で來平する久慈オーシャン倶樂部キャプテンは函館を出發明朝平着の豫定であるが向ふ一週間寄宿舍に合宿して全軍を指揮する

滿洲行
藤田中尉
—(第廿六信)—

○出先軍部○の決心と○準備○

この間に處して吾々出先その軍部としては職責上勿論ぬかりなき準備と牢乎たる決心とを有するに至つたのであります。この頃吾々の隊內では屢々不時呼集も行ひ夜間の警備演習も實施して部下將兵の訓練には間然する處がなかつたと思ひます。其上九月二十日には後期入營兵の第一期檢閱が施行さるる事になつて居りましたので夜間の鐵道警備演習には殊に力を注いで居つたのです。

其夜の支那軍。。。

一、九月十八日の夜は不思議にも北大營周圍の堤防上の步哨の數は著しく增加され又屢々誰何したそうです。

二、又この日に限つて分遣所各哨所間の我が電話は度々不通となつたのです。

三、北陵街道から北方爆破地點方面には支那兵が居つて我が斥候は一兵たり共入れなかつたそうです。

其夜の我軍。。。

一、虎石台屯在の第三中隊はその夜北大營北方六粁文官屯と云ふ所で夜間の演習を行つて居りました。中隊長は川島大尉です、その中隊附の河本中尉は鐵道線巡察警備を敎育するため六名の兵卒を從へ內四名を先行さし、二名は護衛兵として北大營の西側線上を柳條溝分遣所に向つて南下して來たつたのです。當日滿洲の月の入りは十時三十分でありまして正に月が落ちやうとして滿洲の夜は一際澄み渡つて居つたのです。河本中尉がこの隅角から(北大營西南角)から大凡七百米で路線で申しますと爆破地點から西方に過ぐること二百米の地點に參りますと突如として大爆音が聞ゑたのです。すは何事ぞと河本中尉の一隊は直ちに引返し之れを天空に透して見ると正にまがうかたなき支那の正規兵五六名位北大營方向指して退却します姿が見えますので中尉は直ちに之れに向つて射擊を命じたのですが更に後を追ふと二三百米前方の燒死燒場高粱畑の中から盛んに射擊を受けますので河本中尉は一名の傳令を川島中隊長の許に急派し同時に電柱に取附けられてあるシャックボックスに依つて軍用電話は通じられたのであります。月は早くも沒して暗度は增し通視はきませんでしたが、この時の敵の兵力は銃聲より判談しましてあらうとて凡二三中隊位であらうと思ひます、鐵道守備隊の兵は平常三十發の實彈を所持して居るのが常として居るのです、射擊の訓練も非常に熟達して居りますので先きの射擊もうまく命中したと見えまして三人の敵兵が斃々と射斃されて居り又現場から北大營までには血痕が斷續して居りました、河本中尉が派遣した傳令は時ならぬ爆音を聞きて怪ぶみ乍ら南下する川島中隊長に途中で出會ひしました。川島大尉は傳令の報告に接するとすぐ奉天の大隊本部に電話報告をなし身自らは部下の主力を提げて現地方面に急行したのです。

平町公民學校に辛じて目鼻がつく
四月の開校が今日迄延びる 入學希望者の皆無で

平町公民學校は既に認可されたが入學希望者が一名もないので四月開校が現在に至る迄延期されてゐたが愈々近く開校記念式を擧行し始業すべく町當局では準備を進める事になつた

產業組合に婦人部設置
具体案を急ぐ

產業組合郡部會では產業組合中央會の組合擴充五ヶ年計劃に基き不況時の農村救濟機關として組合の活動を益々活潑ならしむべく八月中旬に管下組合長會議を開き活動方針を協議する事となつたが更に組合の別働機關として一組合每に婦人部を設け副業奬勵其他に活動すべく目下部會の手で具体案を作成中である

磐中磐炭の陸上競技
十七日開催

磐中對磐炭の競技試合は十七日午後一時から磐中グラウンドに開催

石井孝君一等當選
讀賣仙臺支局主催のラヂオ藝術家投票

讀賣新聞仙臺支局主催東北六縣ラヂオ藝術家人氣投票中映畫物語に出陣した平館の石井孝君は約三萬票を獲得し偶然にも仙臺市文化キネマの北原英太郎君と同點で一等當選の榮冠を得た

馬の國勢調査

馬の國勢調査は十月一日現在で行はれるので今十五日關係者は平町役場に會同打合せをなした

第二校生徒の『夕の踊舞』
23日午後7時から

平第二小學校では二十三日午後七時から講堂に於て舞踊の夕を開催すべく目下準備を急いでゐるが當日は父兄母姉を招待すると

がある

竹四郎は
一年半の懲役

植田町大字植田字上川原木賃宿小野ミキ方無職青木竹四郎(三〇)は四月十日から七月六日に至る間錦村大字長子字長町金成政男方から白米一斗を竊取したのを手始に前後數回に亘り附近で竊盜を働いた事件は昨十四日平區で懲役一年半を言渡された

鷄專門の賊
遂に平署に御用

平町鎌田町居住夏井村上大越生れ坂下三郎(一九)假名—は去月二十一日夜平町大町上野賢一所有の養鷄場から鷄五十七羽を竊取した外各所で鷄專門に合計百四十二羽を竊取し何れも一羽四十錢位で拾賣りしカフエー等を飲み步いて居た事發覺昨十四日平署に檢擧された

小遣錢欲しさに胡瓜畑を荒す
呑まず喰はずに二日二晩 罪を恐れて彷徨ふ二少年

平窪村下平窪農木田源宗方雇人山形縣生れ高橋七郎(一七)同丹野甚一方大泉重藏(一六)何れも假名—は小遣錢欲しさから十一日午後四時頃同村中鹽地內畑から胡瓜百五十本を竊取し之を八百屋に八十五錢で賣却費消したが事實の發覺を恐れ十三日朝野良に出た儘主家を飛出し晝は谷川瀨方面の山林中に隱れ夜は松ヶ岡公園のベンチに寢て二日二晩絕食してゐたが空腹の爲昨十四日午後十一時頃平驛待合室で交互に水を飲んでゐるのを平署員に發見され目下保護を受けてゐる

。。第一校の同窓會。。。　平第一小學校の三十五回同窓會は十九日午後一時から母校に開催藤田中尉の滿洲視察談

。。秋蔬菜傳習會。。。　農試神谷分場では今十五日午前十時から秋蔬菜の栽培農事傳習會を開いた

四倉通信

鯨岡署長榮轉。。。　四倉警察署長警部補鯨岡恒氏は此度關東廳に出向を命ぜられ四五日中出發すると

宿屋組合總會。。。　四倉署管內宿屋營業組合定期總會は今十五日午前九時より四倉警察に於て開催した

。。校長團視察。。。　石城郡第三區校長西山直三郎氏外十一名は昨十四日草野、四倉兩校を視察した

。。五歲の男兒溺死。。。　四倉町字田戶中の山栗木作佐久間安吉長男一男(五)は十三日午後三時頃附近の溜池で水泳中誤つて深みに入り溺死急報により額賀醫師急行應急手當を施したが蘇生するに至らず四倉署から神永部長出張檢視した

接客業者へ訓示。。。。　四倉署では昨十四日管內料理店業者並に女給、酌婦等を召集し署長より衞生方面室內の設備等に關する訓示を行つた

。。賞狀を贈らる。。。　平第二校五年石山小夜子、一年生石山ナオ子の兩名は白河圖書研究會主催の展覽會に出品して賞狀を贈られた

平町慶弔錄

△出生
胡摩澤五四東京府北豊島郡大泉村小ふ五八七堀滿義三男淸
鍛冶町二九淺井こう二男雅之

舊六月十三日 土曜 戊寅 赤口 危 胃宿
七月十六日

諸判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白の人　一面に幸運を負ふも他面に悲運を含む注意▲二黑の人　諸事澁滯を來たさんとする日進むも功なし▲三碧の人　氣分を平靜に事に當りて動ずる事なくば吉▲四綠の人　利を得るに先立ち內容の充實を謀るに宜し▲五黃の人　重りやうに堪えず朽ちし椅の落つるが如し危險▲六白の人　位置高くも人に誇るな卑下して人に交り吉▲七赤の人　計劃大破する日萬事進むは凶盜難遺失注意▲八白の人　富裕に馴れて浮華に流る可らず衰兆を呈す▲九紫の人　旺盛の氣運を迎ゆる開店起業好果を結ぶべし

各地情痴ニユース

△夏の夜物語　岐阜市白山町三丁目傘職木村正市(三二)は同町の井上敬三郎長女よし子(一八)と蝶々喃々と散步してゐたが此儘歸るも物足りないと濡旗神社の境內で神苑を汚して居たところを岐阜署員に現行を發見され今後は決して致しませぬの誓約書を入れ放免

△强姦未遂主任　明石市大藏町一ノ六一日本商工株式會社明石營業所主任黑崎繁雄(三九)はキャバレー一番の女給正岡光子(三五)を中崎遊園地海岸に連れ出し暴力をもつてあるものを要求したが光子が極力抵抗した爲兩足その他に全治一週間の傷を與へたので明石署へ訴へられた

△雇仲居に暴行　福知山中の町料亭のヤトナ、阪とみ(三三)が午前二時頃自宅に歸る途中、はつぴ姿の三十歲位の男が『俺は人殺しだ』と矢庭にとみに抱きついて怪しからぬ振舞に出るのでとみは救ひを附近の御突前派出所に飛込んで警官にご出張を煩はし取調べると岸本嘉郞(二七)といふ精神病者と判明

△警察を欺く女　名古屋市東區下飯田町飲食店末廣の女中大貫きみ(三三)は三十三の年になるまで隨分澤山の男に接して惡性の腦梅毒に犯され今更罪の報ひが恐ろしくなり自殺を決心して愛知山の森中で手拭で首を絞めつけたが死にきれぬので其筋へ『只今暴行されました』と嘘の申し立てをしたこと判明大目玉を頂戴した

△憐れたが强身　滋賀縣野洲郡鮮人鄭殷守(三三)は懸想してゐた金光仙(三〇)が忘れきれず母親が再三再四語を進めて居ても一向に纏まりさうもないので最後の手段として金光仙を掠奪し止める母親を足蹴にしたこと所轄署に知れ引致された

(入院隨意)
市原醫院
內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾
皮膚病 市原三三勇
平町田町本通
電話一一四番

貯金は福島貯蓄へ—◇—預金には稅金がかゝりません
御子樣の爲めに貯金!
預金と拂出し御融通も懇切御便利を旨とし月掛貯金には集金人が伺ひます。
福島貯蓄銀行 平支店
平町田町(新道通り淸水醫院跡)
電話三〇八番

東京田久保製
堅牢無比丸ゴム輪付
小供自轉車 一圓五十錢ヨリ
大形特等自動車 三圓八十錢ヨリ
二人乘乳母車 八圓五十錢ヨリ

敎育玩具雜貨問屋
商號 豆屋
森下商店
平町一丁目 電話三九七番

井坂醫院
平町田町
電話 五五九番

蓄音器祭
ビクター
コロンビヤ 特約店
鐵道省御用達 金光堂時計店
平 電一九五

◎キツト安イ店
時計!
ユビワ!
蓄音機!
メガネ!

金 銀 プラチナ
高價買入舛
平町田町丸新デパート假營業所
根本時計店